

CHIBA TATSUYA 埼玉県議会議員 **絆・挑・戦** 令和元年(2019年)秋号

県政報告

発行:埼玉県議会 自由民主党議員団
埼玉県議会議員
千葉達也県政調査事務所
加須市中央1-14-17

千葉たつや

県議会9月定例会

一般会計補正予算 約87億7,129万円

豚コレラ対策予算などを議決し閉会

県議会9月定例会は、一般会計補正予算約87億7,129万円を議決し、10月11日に閉会しました。

その内訳は、豚コレラ対策費として約10億6,440万円を計上したのをはじめ、公共事業として当面緊急に対応すべき事業について約55億134万円（道路・街路事業：31億7,127万4千円、河川事業：23億3,007万円）、参議院議員補欠選挙に要する経費として約22億550万円が計上されました。

風評被害対策はじめ農家支援に全力

豚コレラ対策費として計上された補正予算の内容は、今後の発生に備え殺処分などにかかる費用として約8億円、出荷制限となった養豚農家への助成金に約9,200万円、緊急的なつなぎ融資制度の創設のための約400万円、県産豚肉の消費拡大フェアの開催費用約316万円など、感染被害を受けた養豚農家への経営支援が含まれています。

県内の養豚場は現在83戸あり飼育頭数は約9万頭。「彩の国黒豚」や「古代豚」など、ブランド豚への取り組みも進んでおり、農業産出額は約71億円（平成29年農業産出額及び生産農業所得統計から）になります。

今後は豚コレラを封じ込めるための防疫措置の徹底はもとより、風評被害対策など、埼玉農業を守るため全力で取り組んでいく所存です。なお9月定例会において、自民党県議団は養豚農家への支援充実と対策強化等を求める要望書を県に提出しました。



埼玉県議会傍聴(一般質問 千葉 達也)
&造幣局視察(バス移動)

12月9日(月)午前8時集合(予定)

問合せ先:事務局 桑子(090-7170-6027)

※ご参加いただける方には、詳細をご連絡させていただきます。

埼玉県議会議員 **千葉 達也**

所属委員会

産業労働企業委員会
公社事業対策特別委員会



埼玉県議会剣道部にて
右：横川雅也県議（東松山・川島・吉見）、左：吉良英敏県議（幸手・杉戸）と

県民の皆さまへ

豚コレラは人に感染しません。

- 豚コレラは、豚・いのししの病気です。
- 豚コレラの人への感染は世界的に報告されていません。
- 豚コレラにかかった豚肉が市場に出回ることはありません。

※豚は、と畜場法に基づき、全頭、都道府県等のと畜検査員が異常や疾病がないか検査しています。豚肉は、この検査に合格したものが市場に流通することとなっています。

主な視察報告

様々な知識と情報を蓄積するために!

視察

県議会産業労働企業委員会視察

令和元年9月3日～9月5日
福井県・石川県・富山県

【まちづくり株式会社ZENコネクト】吉田郡永平寺町

■自動運転自動車の実証実験の取り組みについて

●自動車産業が自動運転化等の大変換期に直面している現在、県内中小企業がこの変化に対応し、次世代自動車分野等への転換や参入を図るための支援が課題となっています。

埼玉県のみならず全国的に社会問題になっている少子高齢化の加速、更には昨今の高齢者層の自動車事故の急増を踏まえ免許の返納に対する問題、高齢者等の交通手段の確保として自動車の自動運転化の技術は期待が大きいものと確信しています。



【公益社団法人とやま観光推進機構】富山市

■日本版DMOの取り組みについて

●地域の観光資源を広域的な視点で戦略をもってマネジメントすることにより、県全体として観光振興を推進することが課題となっています。

この視察で考えさせられたことは、富山県は伝統産業、観光資源がとにかく豊富であるということです。運営はほぼ助成金で活動しているようですが、県全体がまとまって富山の魅力を発信していると感じられました。

埼玉県の伝統産業や観光資源をもっともっと深く理解しなければいけないと痛感させられました。そして、様々な地域の観光資源や伝統産業をチーム埼玉でまとめてアピールしていく必要性があると感じました。



【株式会社小林製作所】白山市水島町

■小企業におけるIoT技術導入の取り組みについて

●本県で取り組んでいる先端産業創造プロジェクトにおいて、IoTの開発・導入支援が重要分野の一つとなっており、この推進が課題となっています。

工程や社員さんの作業状況を全員で把握することができるカイゼンシステムは、中小企業で採り入れ可能なシステムであると思いました。メモリーの確保や送信スピードの確保のため、動画ではなく静止画像を間欠撮影したものを使用している点は圧巻でした。



【株式会社不二越 富山事業所】富山市不二越

■協働ロボット開発の取り組みについて

●自動車生産などで導入が進んだロボット技術は、今後様々な分野において人手不足の解消や社会問題の解決のツールとして期待されており、その開発・事業化が課題となっています。

作業内容、ロボット化したい技術の内容をどこで分離するか、あるいは協働で実施していくかを、各企業に適した形で検証していくことが最も重要な作業であります。それは各経営者の考え方にかかっていると実感するとともに、経営者と不二越のようなメーカーとの協働作業が必要であると感じました。



自民党県議団1期の会「令和会」県外視察

令和元年7月24日～7月25日
宮城県・福島県

【宮城県議会】宮城県土木部住宅課・震災復興・企画部 震災復興政策課

■災害復興住宅の現状と課題について

●宮城県震災復興について復旧期(平成23～25年)・再生期(平成26～29年)・発展期(平成30～令和2年)の復興計画と実施状況について詳細にご説明いただき、被害の悲惨な状況や復興の冷静な対応を知ることが出来ました。

●玉浦西地区・三軒茶屋西地区の災害公営住宅整備事業や防災集団移転促進事業の現地を視察しました。

コミュニティの維持とスピード感を持った集団移転の難しさや、世代を超えた持続可能なまちの形成について当時の担当者から伺うことが出来ました。



【福島県議会】教育庁 義務教育課・商工労働部 経営金融課

■eラーニングや通信教育等を活用した学習支援について

コンピュータやインターネットを活用した英会話等の学習方法について視察させていただきました。山間部や小規模な中学校が複数点在する地域の格差是正、コミュニティー能力を高めるためには、とても有益な学習手段であると感じました。

■オールふくしま経営支援事業を中心に、中小企業の経営基盤の強化について

経営者の高齢化や後継者の不在等、事業継承の課題を解決するために、県及び関係機関が一体となった円滑な事業継承支援が必要であることなどを視察させていただきました。



ハッ場ダム建設推進議員連盟 現地視察

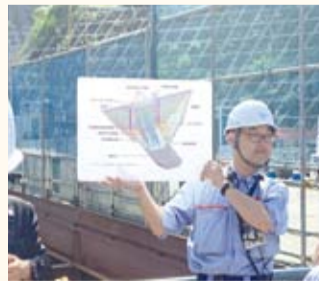
令和元年8月5日

昭和22年のカスリーン台風から72年目を迎える令和元年にハッ場ダムを視察させていただきました、とても感慨深いものを感じました。

ハッ場ダムは、利根川支川のうち大きな流域を抱えながら洪水調整施設が無かった吾妻川に多様な洪水に対して首都圏の治水安全度を確保する目的の治水、そして、首都圏での昭和33年から毎年のように発生している渇水の解消を目的とする利水、「治水・利水」を目的に建設がすすめられました。

川原湯温泉郷をはじめダム建設地に住んでいた方々の犠牲と決断によってこの事業が進められたことを痛感し、敬意と感謝の気持ちがこみあげてきました。

また、ハッ場ダムによって今回の台風19号の影響が、最小限に抑えられたことを実感しました。



重力式コンクリートダム・高さ116m・総貯水容量10,750万㎡
流域面積711.4km²・工期:昭和42年度～令和元年度